

令和7年8月教育長定例記者会見

期 日 令和7年8月8日（金）

時 間 15：45～16：07

出席記者 読売新聞、RCC、NHK、テレビ新広島、中国新聞、朝日新聞、広島ホームテレビ
毎日新聞、共同通信、時事通信

《令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について》

広島県民： 広島ホームテレビの牧之内と申します。4月に実施されました、全国学力調査の結果が出まして、4年連続で中学の数学が全国を下回るような結果となっております。今回、全体的に全国学力調査の結果を受けてですね、受け止めを教えてください。

教 育 長： はい。今、御指摘もございましたように、小学校では全教科で全国平均を上回っておりますけれども、中学校の数学・理科で全国平均を下回るというような結果になっております。これについて、今、詳細な分析をして、また夏の間にですね、しっかり2学期以降の授業改善をしていただくような形で取り組んでいるところでございます。先ほどありましたように、中学校数学について4年連続（で全国平均を下回るような結果となっている）という話がありましたけれども、これは中学校だけの課題ではなくて、小学校から続いている課題でありますので、しっかり課題について、小学校・中学校ともに認識を新たにさせていただきまして、1つ1つの指導改善につなげていただければなというふうに思っております。この結果だけについて、一喜一憂するものではなくて、あくまで授業改善であるとか指導改善のためのものでございますので、どのように子供達の力を伸ばしていくのかということを意識して取り組んでいただければというふうに思っております。特に数学の方では、概念の理解といいますか、解き方は分かるけれども、それがなぜそのようにするのかというのが分かっていない。分数の計算はできるんだけど、分数の計算の仕方について、しっかり説明できるまでに身についていないというようなところ、そういったところが課題なのは中学校でも同様に見られますので、そういったところの課題の部分について、しっかりまた2学期以降の授業改善、指導改善につなげていただければなというふうに思っております。

広島県民： 先ほどですね、「中学校は全国平均を下回っておりますが、小学校での問題でもある。」というような表現をされていらっしゃいましたけれども、その辺はやっぱ、積み重ねというニュアンスで捉えていてよろしいんでしょうか。

教 育 長： はい。数学、そして理科もそうなんですけれども、系統的な学習内容でありますし、また、スパイラルで積み上げていくものでございますので、より低学年の段階でのつまずきというのが、上の学年でも持ち越してしまうという傾向があります。その学年の段階での学習内容をしっかり身につけていくことで、上の学年でもそれが定着していくということにつながっていきますので、1つ1つのつまずきのところですね、丁寧に見ていただいてクリアしていくということが大事なかなと思っております。

広島県民： 今回ですね、数学に関しては4年連続というところなので、教職員の現場の方にはどういうふうにお話をされるんでしょうか。

教 育 長： はい。県のホームページで、指導改善のための研修動画ですとか、研修資料を早速掲

載させていただいております。校内研修ですとか、また、先生方のそれぞれ自主的な研修もあると思いますけれども、そういったところに活用いただきまして、2学期以降、1人1人の子供達をつまずきの状況を見ていただくということをしていただきたいと思いますし、また、これまで基礎的な学力の基盤づくり事業、学びの基盤づくり事業ということで、小学校の低学年段階からの基盤づくり事業を行っておりますけれども、そういったところをですね、中学校にも展開するというので、小中ともにですね、基礎的な内容からしっかり定着を図っていく。そしてこれまでもですね、抽象的な概念の理解のところについては、課題があるというのは継続して分かっていることですので、これまでの研究成果から活用できる研修資料も合わせて掲載しておりますので、これらをですね、活用いただいて、(学力の向上は)積み上げでございますので、しっかり学習の定着が図れるように取り組んでいただけるように、県教育委員会としても取り組んでいきたいと思っております。

中国新聞： 中国新聞の野平です。先ほどの学力テストの関連で質問させてください。今年も例年どおりですね、市町の平均正答率を公表されているんですけども、この公表に至った理由と、あと、今年から導入が始まった中3理科の、新たな基準での点数の算出方法のことで、全国と広島の平均は整数で出されているんですけども、市町については10点刻みで幅を持たせて公表されているんですが、この理由も教えてください。また、来年度以降についてですね、市町についてはこれまでどおり、結果公表されるかどうかということも教えてください。

教 育 長： はい。今年度は、理科のC B T、I R Tの方式になりましたけれども、この全国学力・学習状況調査の目的でありますけれども、それぞれの教育行政の中で教育施策の改善を行っていくということ、また、指導方法の改善を行っていく、そのための参考とするということの目的は変わりませんので、そういった、より指導の改善を図っていくという目的のためにですね、それぞれの市町の教育委員会の同意を得ました上で、今回も同様に市町別の結果について公表するというふうにしたところであります。来年度は、英語がC B T、I R Tの対象として行う予定となっておりますので、その点も踏まえてですね、また来年度、今回の結果を踏まえてどうするかということについて、また市町教育委員会と協議をして、同意が得られるようであれば、指導改善に役立てるような形でしっかり公表していきたいというふうに思っております。また、今回、中学校理科でI R Tのスコアで公表するということになりました。このI R Tのスコアで表示されるということでもありますけれども、共通問題と、それからランダムに割り当てられる問題と両方ありまして、一定のサンプル数があればですね、より精度の高いスコアということで割り出せるものでありますけれども、市町別の状況になりますと、かなりサンプル数が市町別には限られますので、ある意味、信頼度の幅というものが当然、I R Tスコアを出す時に出てしまうというのが、統計上のテクニカルな部分でありますので、その点配慮、考慮いたしまして、10点の幅を持った形でのスコアの表示ということでさせていただいております。

中国新聞： ということであれば、来年度、英語も同様にI R Tのスコア表示になると思うんですけども、来年度も10点刻みで市町の(結果を)公表をしていくお考えかどうか。

教 育 長： はい、基本的には考え方は変わらないと思うんですけども、来年度のデータの状況、国から示されるデータの状況を踏まえてですね、改めて検討し、そして市町とも同意が得られる中で、結果の公表について考えていきたいと思いますが、基本的なスタンスとしては変わらないかなと思っております。

《教職員の不祥事防止に向けた取組について》

R C C： すみません、R C Cです。よろしくお願いします。前回の会見でもお伺いしたと思うんですけども、6月にですね、名古屋市の方で教員による盗撮事件で、SNS、グループで共有していたという事件がありました。また、同時期にですね、広島市でも、教員が教室でわいせつ行為を行ったという事件がありまして、今月に入りまして、別の児童へのですね、わいせつ行為に加えて動画を撮影していたという、3回目の容疑で逮捕されています。こうした教員による盗撮事件といえますか、相次いで起こっていることについて、受け止めをまず聞かせていただけますでしょうか。

教 育 長： はい、今、御指摘ありましたように、教員による不祥事といえますか、わいせつ事案、特に盗撮ですかね。それからSNSを介したもののというのが続いているということについては、深刻に受け止めておりますし、また、決して他人事では済まされないことですので、重く受け止めているところでございます。はい。

R C C： 文科省の方も、教育界自体のですね、信頼を揺るがしかねないということで、いろいろ通知を出して対処しているというところだと思うんですけども、広島県教育委員会としてですね、こうした、いわゆる盗撮事案に関して、対策としてですね、お考えになっていらっしゃるようなことがあれば教えていただけますでしょうか。

教 育 長： はい。対策としてということで、既に通知等を行い、また、学校で具体的な取組をしていただいているところではありますけれども、今年度でいいますと、6月にですね、県立学校で校内の不祥事の防止のために、校内で密室になるような箇所であったり、あるいは死角となるような場所、そういったところを再点検するということ。また、使用していない教室ですね、そういったところをですね、管理を徹底すると。特に鍵の管理ですね。1人で持ち出して無断で使うことがないようにということでもありますとか、また、改めてになりますけれども、児童生徒と1対1になるような場面というのがないようにと。例えそれが、個人面談といった場面も想定されますけれども、そういった場面では、しっかり実施場所ですとか、実施方法を、管理職等とも共有しながら行うなど、改善を図るということを通知させていただきまして、その点について校長会とも連携して取り組んでいるところであります。そういった点について、学校で校長を中心に取り組むというのは勿論なんですけれども、しっかり全職員がですね、一緒になってですね、点検をして、同僚制を機能させるような形で、自分達のことということで思って取り組むような形で対応していただいております。加えまして、先月ですけども、文部科学省からの通知、そして、緊急の教育長会議もございました。そういったこと踏まえて、県教育委員会といたしましても、私物のスマートフォンの利用、あるいはデジタルカメラの利用について、改めて児童生徒の写真を撮影、また、動画を撮影することについて禁止をするということですね、明記をし、徹底をしているところでございます。これらについてしっかり徹底をするということと、互いにそれを牽制し合う。牽制といいま

すか、同じ教育の崇高な目的・目標のために、共に仕事をする同僚ですから、そういった同僚がしっかり前を向いてですね、教育の充実のために取り組めるような形で、取組をしっかり行うということを確認し、徹底しているというところでございます。

《新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について》

テレビ新広島： テレビ新広島の若木です。すみません、資料の方に戻って恐縮なんですけれども、新しい広島県公立高等学校の入学者選抜制度に係る成果と課題の部分で、自己表現のところで、成果がある一方で負担があるという意見があるという記載があるんですけれども、ここについて改めて教育長の見解と、今後どうしていくのかというところも伺えますでしょうか。

教育長： はい。これまで、自己表現は、新しい入学者選抜として、自己表現を導入して、3回行ってきたところでございます。今年度の入試に関しましては、負担軽減のためということで、自己表現カードを廃止いたしまして、学校現場、それから受検者の負担軽減を図ったというところであります。また、今回配付しております資料にもありますように、さらにですね、検査官側で言いますと、評価ブレであったりとか、あるいはなかなか評価しづらいというところもあるというような意見もありますので、その点について、学校の中で評価の目線合わせが必要になってまいります。そういったものがよりやりやすくなるような資料を示すといったことも考えたいと思いますし、また、実施する中でですね、今回いただいたアンケートの中の御意見もありますので、その中で、更に改善できるところを改善するような検討はしていきたいというふうに思っております。

《広陵高等学校における暴力事案について》

中国新聞： 中国新聞です。広陵高校硬式野球部ですね、暴力事案について伺います。こういった問題が起きていること自体に対してですね、教育現場でこういったことが部活動の中で起きているということについて、まずどのように受け止められておりますでしょうか。

教育長： はい。本件は教育委員会として何か承知をしているものではなくてですね。報道に接して承知したところでございますので、この事案に関してのコメントというのは差し控えたいと思いますけれども、報道にあったようなですね、暴力行為というようなことはあってはならないことでありますし、しっかり学校としてもですね、対応するいわゆるいじめ防止対策推進法がございます。そういったところを踏まえてですね、しっかり対応することが必要であるというふうに思っております。

中国新聞： この問題を巡ってですね、今、SNS上で真偽不明の情報であったりとか、誹謗中傷といったようなものが投稿・拡散されていると思うんですけれども、こうした暴力行為が発生して、SNS上でこういった情報が飛び交うことに対して、どのようにお考えでしょうか。

教育長： はい。今やもうSNSでいろいろな方が発信者となり、また、それを御覧になる方がたくさんいらっしゃるという、そういったことについて、具体的な制限と申しますか、そういったところが物理的にできるようなところではないかと思っております。それぞれがメディアリテラシーを持って接し、また、良識ある対応・発信をされるというのが本来望まれるところだと思いますし、そうあってほしいというふうに思っております。今、報

道でもそういった御指摘の点があるということは報道に接しておりますけれども、このことについてコメントするようなところはないかなと思っております。

(以上)